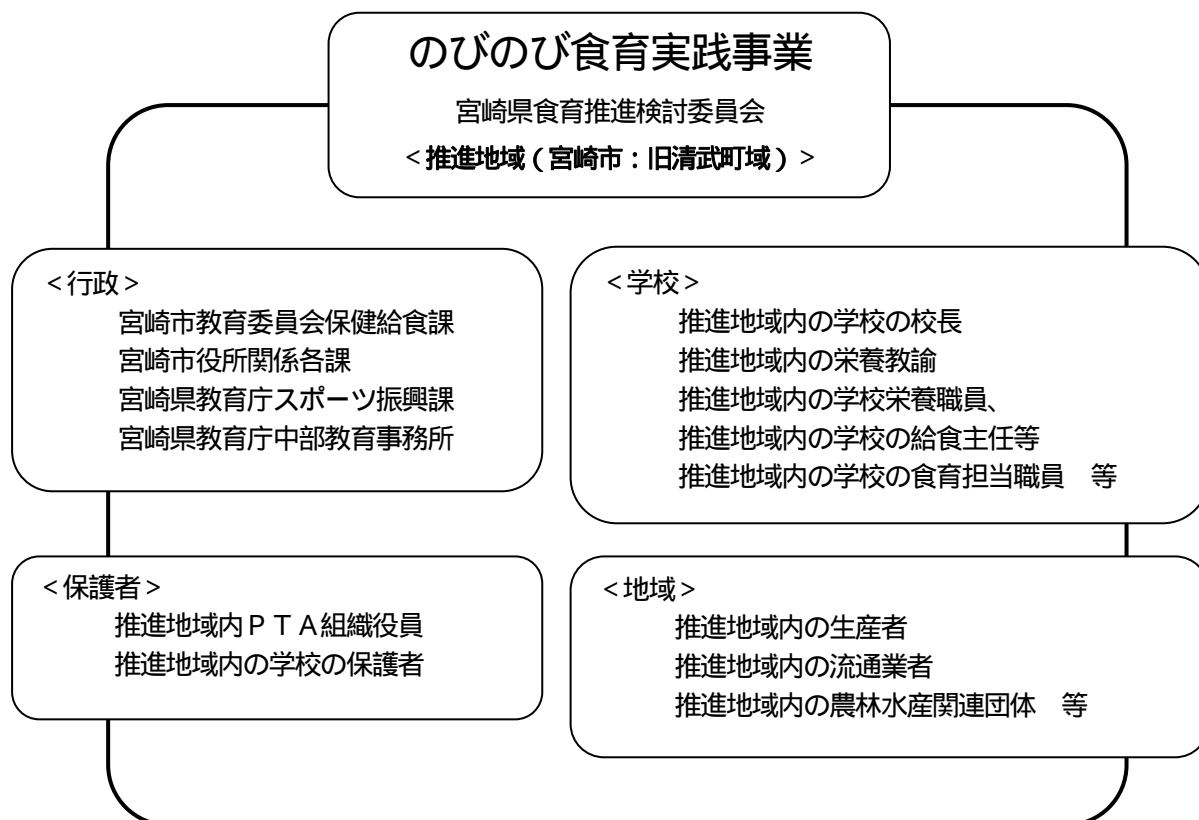


栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	宮崎県
再委託先名	宮崎市(旧清武町域)

1. 事業推進の体制



2. 具体的取組等について

テーマ1 学校における地場産物活用を核とした食育推進体制づくり

<内容>

「食育推進検討委員会」を設置し、広く関係団体等との連携を図りながら、学校給食及び食に関する指導に地場産物を有効活用するための手立て等について協議し、実践化を目指す。

<実践状況>

1 食育推進体制の整備状況等に係る実態調査の実施

学校給食や食に関する指導等に地場産物を積極的に活用するため、地域や関係団体等と連携した組織の設置状況やその構成メンバー等について実態調査を実施した。

2 地場産物の有効かつ積極的な活用を図るための検討委員会の設置及び協議会の開催

「食育推進検討委員会」を設置し、地場産物の活用状況や活用促進上の課題、課題解決のための手立て等について協議を行った。

テーマ2

地場産物を活用した体験活動の実施等、学校における食育の推進

<内容>

栄養教諭及び学校栄養職員が中心となって、地域の団体や住民の協力を得ながら、食に関する体験活動や学習等を実施し、実践力を備えた子どもたちを育成する。

<実践状況>

- 1 地場産物を活用した体験活動の実施等に係る調査の実施
料理教室や農作業体験など、食に関する体験活動の実施状況等について調査を実施した。
- 2 宮崎市のびのび食育実践事業：「食育講演会」の実施
事業推進地域である宮崎市全域から参加者を募り、食育や歯の健康に関する講演会を実施した。
- 3 宮崎市のびのび食育実践事業：「夏休み親子料理教室」の実施
小中学校に配置された栄養教諭及び学校栄養職員等が中心となり、市内全域で親子料理教室を実施した。
- 4 自分で作る「みやざき弁当の日」の実施
「弁当の日」に、以下のとおり推進地域（旧清武町域）内全ての小中学校（5校）が取り組んだ。
このほか、市内全ての公立小中学校の約8割が「弁当の日」に取り組むなどの広がりもみられた。
- 5 関心や意欲を高め、実践力を育成するための「体験活動」の実施
地域の特色を生かし、学校毎に様々な食に関する体験活動を実施した。
<例：1> さつまいもを使ったおやつ作り
<例：2> もち米作り（稲刈り、脱穀、餅つき 等）
<例：3> さつまいも作り
<例：4> 地場産物「千切り大根」作り、夏野菜作り

テーマ1～2に共通する具体的計画

1 視察研修

(1) 宮崎県食育推進検討委員会における視察研修

山口県下関市・大分県佐伯市にて、11月28日（月）～29日（火）に実施した。

栄養教諭、小中学校の食育担当者、学校給食センター所長等が参加し、下関市の食育プランや、下関市教育委員会における地場産食材を活用した学校給食及び地域に根ざした特色ある食育活動、佐伯市立渡町台小学校における食育に関する実践等について研修した。

(2) 事業推進地域（宮崎市）における取組の支援

本県においては推進地域が1地域のみであることから、県と推進地域（宮崎市）とが融合した形の食育推進検討委員会を設置するなど、県と推進地域とが密に連携することによって種々取組を進めている。

例えば、推進地域において、独自の様々な活動等が企画された際には、随時、県教育委員会から指導主事が出向くなどして、実践の支援にあたった。

<例>

食育講演会

夏休み親子料理教室

数字で変化のあった事項について

1 実態調査の結果

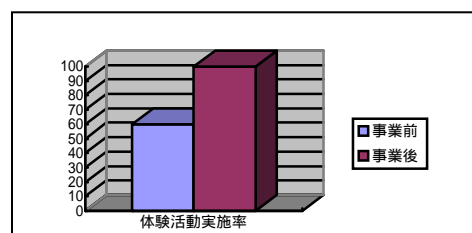
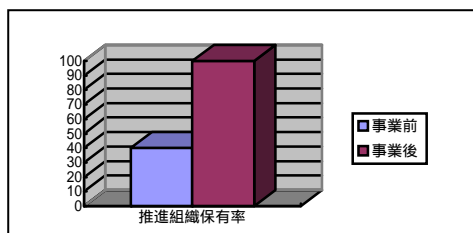
7月と1月に宮崎市(旧清武町域)の全小中学校に対して実態調査を実施した結果、以下のような変化がみられた。

(1) 地場産物活用のための、地域と連携した組織の保有率

【事業実施前 ~ 40% 事業実施後 ~ 100%】

(2) 地場産物を活用した体験活動等の実施率

【事業実施前 ~ 60% 事業実施後 ~ 100%】



事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

「テーマ1」、「テーマ2」、「テーマ1及び2に共通する事項」各々について、以下のような効果が得られたと考える。

1 テーマ1 「学校における地場産物活用を核とした食育推進体制づくり」について

○ 食育推進検討委員会の設立

学校関係者のみならず、生産者その他多様なメンバーによるネットワークが構築された。

○ 食育推進検討委員会の実施

事業推進に係る基本的な考え方や推進地域内における学校給食への地場産物活用状況、各学校における食育に関する具体的実践等の情報を共有することができた。

また、地場産物の活用を更に進めたり、地域の人材等の学習への活用を進めたりする上で課題となる事項や解決のための具体的手立て等について検討することができた。

<例>

地場産物の直売等に携わる「交流プラザ」の有効活用

... 学校給食の食材としての地場産物の調達

... 学習用の資料や情報の入手

2 テーマ2 「地場産物を活用した体験活動の実施等、学校における食育の推進」について

○ 「弁当の日」の取組の、推進地域(旧清武町域)内全ての小中学校での共通実践

○ 「夏休み親子料理教室」の市内全域での実施

... 郷土食の調理その他

○ 近隣の農家との連携

... 「日向夏みかん」栽培農家の見学や収穫体験等

○ 親子で参加する体験活動等多様な活動の実施

... 料理教室、農作業体験等

3 テーマ1及び2に共通する事項について

○ 事業の成果の発信

県教育委員会と推進地域とが連携したことによって、事業推進地域における取組の成果等を、全県下に広く発信することができた。

<例>

県教育委員会主催の研修会等における取組の紹介

県教育委員会による情報提供テレビ番組における事業の概要等の紹介 等

○ 著名な講師を招聘しての講演会の実施

○ 先進地視察研修の実施

今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

1 テーマ1 「学校における地場産物活用を核とした食育推進体制づくり」について

○ 体制の維持・継続

本事業によって、地域に根ざした食育を推進する上で極めて有効なネットワークを構築することができた。予算措置のなくなる次年度以降、いかにして体制を維持し、情報交換等の機会を確保していくかということが最も大きな課題であろうと考える。

効果が期待できる方策の実践化

地場産物の活用促進上、推進地域内にある「交流プラザ」活用の有効性が話題となった。

事業を通して構築された体制を機能させ、品数や安全性等の課題を一つ一つ解決しながら、実現に向けた検討及び準備等を進めていきたい。

2 テーマ2 「地場産物を活用した体験活動の実施等、学校における食育の推進」について

地域の素材や人材の活用

本事業に取り組む中で、学校の教育活動に対して協力を惜しまないとする生産者の思いを改めて知った。

次年度以降も、栄養教諭及び学校栄養職員を核としながら、地場産物や地域の素材及び人材を生かした取組を積極的に行っていきたい。

食育推進上有効な取組の継続

「弁当の日」や推進地域内全域で実施した「親子料理教室」、地域の特色を活かした体験活動等の有効な取組については、次年度以降も引き続き実施していきたい。

3 テーマ1及び2に共通する事項

全県規模の実践の充実

具体的な実践を推進地域に焦点化して行い、成果を周知することによって、他地域に対する啓発や全県的な食育推進の機運の高まりを目指すことが、本県における本事業推進の基本的な考え方であるが、今後は、推進地域での実践と併行・連動させながら、全県規模の取組についても工夫していきたい。

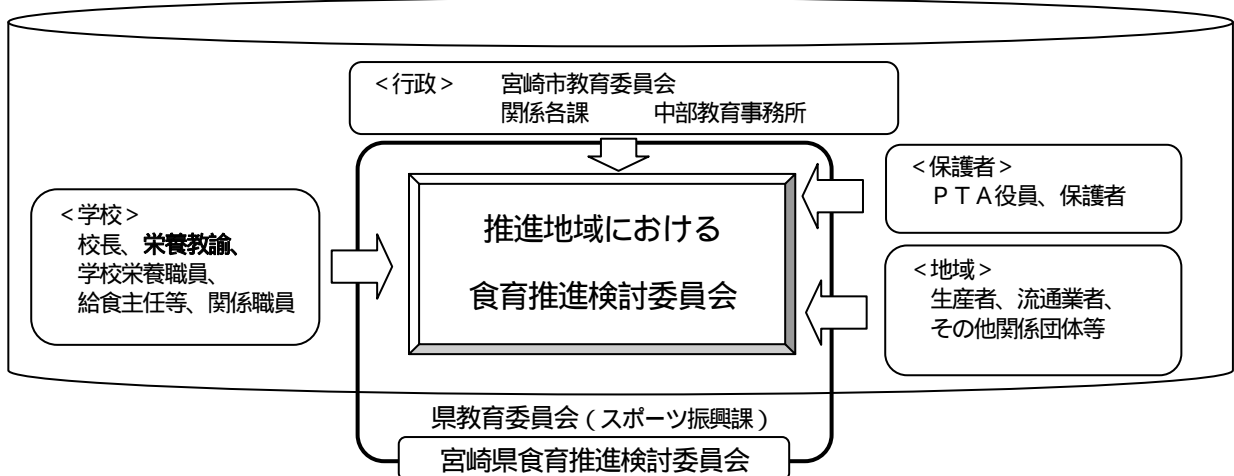
事業の成果の発信

本事業の実施によって多くの成果が得られたが、具体的な実践を進めていく中でたくさんの資料も作成された。今後、こうした資料等を県のホームページに掲載するなど、より効果的な周知・啓発の方法について工夫し、実践に努めていきたい。

再委託先名

宮崎市(旧清武町域)

1. 事業推進の体制



2. 具体的取組等について

テーマ1 学校における地場産物活用を核とした食育推進体制づくり

<内容>

「食育推進検討委員会」を設置し、広く関係団体等との連携を図りながら、学校給食及び食に関する指導に地場産物を有効活用するための手立て等について協議し、実践化を目指す。

<実践状況>

1 食育推進体制の整備状況等に係る実態調査の実施

学校給食や食に関する指導等に地場産物を積極的に活用するため、地域や関係団体等と連携した組織の設置状況やその構成メンバー等について実態調査を実施した。

2 地場産物の有効かつ積極的な活用を図るための検討委員会の設置及び協議会の開催

「食育推進検討委員会」の設置

<委員の構成>

旧清武町域栄養教諭(1名) 旧清武町域学校栄養職員(2名) 旧清武町域小中学校代表校長(1名) 旧清武町域小中学校食育担当者等(3名) 宮崎市清武学校給食センター所長、宮崎市PTA連絡協議会清武ブロック会長、宮崎市農政企画課農商工連携室主幹、宮崎市清武総合支所農林水産課農林水産係主査、JA宮崎中央南宮崎営農センター集出荷場長、生産者代表(2名) 宮崎市教育委員会保健給食課長、宮崎市教育委員会保健給食課学校給食係主幹・主査、宮崎県教育庁中部教育事務所教育推進課指導主事【食育担当】 宮崎県教育庁スポーツ振興課健康教育担当指導主事【食育担当】

「食育推進検討委員会」の実施

- 日時 ~ 第1回：平成23年8月12日(金)、第2回：10月25日(火)、
第3回：12月20日(火)
- 会場 ~ 宮崎市清武学校給食センター

・ 内 容

< 第 1 回 >

検討委員会設立の目的や、平成 17 年度から 22 年度にかけての清武学校給食センターにおける地場産物の使用状況、各学校における食育に係る実践の状況、食材が納入されるまでの手順や仕組み等について共通理解を図った。

< 第 2 回 >

学校給食において地場産物の活用を高めるためのシステム作りや、各学校で農作業体験を実施していく上での課題等について協議を行った。

また、視察研修の成果報告をもとに、今後の食育推進に関する協議を行った。

< 第 3 回 >

学校における農作業体験活動の実施状況や、学校給食への地場産物活用を促進するための各学校の工夫等について共通理解を図り、更なる食育の推進及び地場産物の活用を図るための手立て等について協議した。

テーマ 2 地場産物を活用した体験活動の実施等、学校における食育の推進

< 内容 >

栄養教諭及び学校栄養職員が中心となって、地域の団体や住民の協力を得ながら、食に関する体験活動や学習等を実施し、実践力を備えた子どもたちを育成する。

< 実践状況 >

1 地場産物を活用した体験活動の実施等に係る調査の実施

料理教室や農作業体験など、食に関する体験活動の実施状況等について調査を実施した。

2 宮崎市のびのび食育実践事業：「食育講演会」の実施

宮崎県の児童生徒には肥満の傾向が伺え、学校保健統計調査等の結果においても、多くの年齢区分で平均体重が全国平均を上回っている状況があり、むし歯の罹患率等とも併せて喫緊の課題となっている。このような現状を踏まえ、宮崎市全域から参加者を募り、食育や歯の健康に関する講演会を実施した。

日 時 ~ 平成 23 年 8 月 4 日 (木) 14:15 ~ 16:00

会 場 ~ 宮崎市民文化ホール

参加者 ~ 学校関係者・保護者 (約 900 名)

内 容 ~ 講演 【演題】 ガッテン流！ちょーおいしい健康づくり術
~ さらばメタボよ、むし歯・歯周病よ！ ~

【講師】 NHK 科学・環境番組部専任ディレクター
「ためしてガッテン」演出担当デスク 北折 一 氏



3 宮崎市のびのび食育実践事業：「夏休み親子料理教室」の実施

小中学校に配置された栄養教諭及び学校栄養職員等が中心となり、市内全域で親子料理教室を実施した。

栄養教諭等が専門性を大いに発揮しながら、メニュー設定から掲示資料の作成、当日の運営、指導等々を行ったほか、学校給食調理員の協力も多くみられた。

郷土食の調理等、会場毎に様々な工夫がみられた。

会 場 ~ 市内全 20 会場

7/27 【大淀小、佐土原地域福祉センター、高岡福祉保健センター、潮見小】

7/29 【生目小、江南小、檜北小、恒久小、田野健康管理センター、大久保小】

8/ 2 【大塚公民館、宮崎南小、青島小】

8/ 3 【宮崎県学校給食会、大宮小、東大宮交流センター、本郷公民館、木花公民館】

8/ 5 【西地区交流センター、宮崎地区交流センター】

参加者 ~ 児童 239 名、保護者 200 名・・・計 439 名

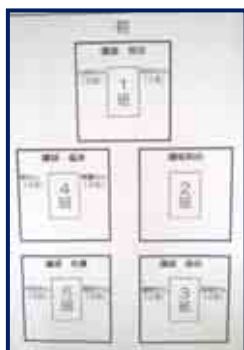
内 容 ~ 宮崎市の特産品等を使った調理実習

栄養教諭及び学校栄養職員による地産地消や健康に関するミニ講話



メニュー（抜粋）

レタス巻き、魚そうめんのすまし汁、肉巻きおにぎり、鶏ごぼう御飯、ハモのすまし汁、佐土原ナスのピザ焼き、手作りうどん、カボチャの煮物、かきあげ、日向夏みかんゼリー 等



4 自分で作る「みやざき弁当の日」の実施

「弁当の日」に、以下のとおり推進地域（旧清武町域）内全ての小中学校（5校）が取り組んだ。このほか、市内全ての公立小中学校の約8割が「弁当の日」に取り組むなどの広がりもみられた。

A小学校	...	10/ 4（全校児童・教諭等）	11/18（全校児童・教諭等）
B小学校	...	10/ 2（全校児童・教諭等）	10/ 4（全校児童・教諭等）
C小学校	...	11/ 9（全校児童・教諭等）	
D中学校	...	10/22（全校生徒・教諭等）	11/28（全校生徒・教諭等）
		12/12（全校生徒・教諭等）	
E中学校	...	9/17（全校生徒・教諭等）	9/21（全校生徒・教諭等）



また、「弁当の日」の前段階の取組として、弁当のおかずになる料理を実際に調理したり、米飯給食の日におにぎりを作ったりするなどの活動を行った学校もある。

<例1> 弁当のおかず調理実習 ~ 参加者259名

A小学校	...	7/20（6年4組）	7/21（6年3組）	7/22（6年1・2組）
		1/20（5年2組）	1/23（5年3組）	1/24（5年1組）

<例2> おにぎりを作ろう ~ 参加者161名

C小学校	...	10/13（1年）	10/18（3年）	10/20（5年）	10/25（6年）
		10/26（4年）	10/27（2年）		

5 関心や意欲を高め、実践力を育成するための「体験活動」の実施

地域の特色を生かし、学校毎に様々な食に関する体験活動を実施した。

<例：1> おやつ作り

A小学校	...	11/10（2年）	「さつまいもを使ったおやつ作り」
E中学校	...	1/19（家庭教育学級：保護者・生徒）	「『子どもと一緒につくる』おやつ作り」

<例：2> もち米作り

A小学校	...	8/ 1（5年）	「稲刈り」	9/13（5年）	「脱穀」	12/9（5年）	「餅つき」
B小学校	...	10/ 5（5年）	「稲刈り」	12/1（5年）	「餅つき」		
C小学校	...	12/13（5年）	「餅つき」				

<例：3> さつまいも作り

B小学校	...	11/ 7（1・2年）	「収穫」
------	-----	-------------	------

<例：その他>

C小学校

- ・ 地場産物「千切り大根」作り
3年生において社会科との関連を図り、大根の収穫、干す作業、調理等の活動を行った。
- ・ 野菜作り
2年生において生活科との関連を図り、ピーマンやトマトなどの夏野菜作りに取り組んだ。

テーマ1～2に共通する具体的計画

1 視察研修

(1) 宮崎県食育推進検討委員会における視察研修

山口県下関市・大分県佐伯市にて、11月28日(月)～29日(火)に実施され、宮崎市から4名が参加した。

栄養教諭、小中学校の食育担当者、学校給食センター所長等が参加し、下関市の食育プランや、下関市教育委員会における地場産食材を活用した学校給食及び地域に根ざした特色ある食育活動、佐伯市立渡町台小学校における食育に関する実践等について研修した。



(2) 宮崎市食育推進検討委員会(再委託先)における視察研修

香川県綾歌郡綾川町にて10月16日(日)17日(月)に実施した。

栄養教諭、実践中心校の校長、PTA連絡協議会代表者等が参加し、「弁当の日」実践校の取組等について研修を行った。

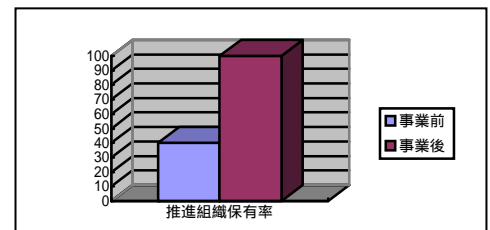
数字で変化のあった事項について

1 実態調査の結果

7月と1月に宮崎市(旧清武町域)の全小中学校に対して実態調査を実施した結果、以下のような変化がみられた。

(1) 地場産物活用のための、地域と連携した組織の保有率

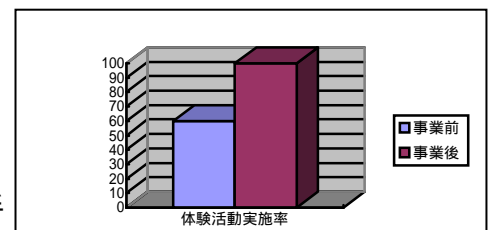
【事業実施前 ~ 40% 事業実施後 ~ 100%】



(2) 地場産物を活用した体験活動等の実施率

【事業実施前 ~ 60% 事業実施後 ~ 100%】

活動の種類	事業実施前 (%)	事業実施後 (%)
1種類の活動を実施	0	20
2種類の活動を実施	40	20
3種類の活動を実施	20	40
4種類の活動を実施	0	20



(3) 地場産物の活用促進に関する主な記述

<事業実施前：活用上の課題>

地域とのつながりを作るための手立て、量の確保や安定供給

<事業実施後：課題解決の手立て>

地域の流通組織との連携による食材の納品及び学習関連情報の入手

(4) 体験活動等の実施に関する主な記述

<事業実施前：実施上の課題>

時間の確保、安全・衛生面の不安、予算の確保

<事業実施後：課題解決の手立て>

関連する事前指導の実施

事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

テーマ1 「学校における地場産物活用を核とした食育推進体制づくり」について

- ・ 食育推進検討委員会の設立により、学校の食育担当者と生産者、流通業者、行政関係者等に跨がる幅広いネットワークや人脈が形成された。
- ・ 食育推進検討委員会において、実践に係るテーマや基本的な考え方を共有するとともに、地域内の学校における食育に関する取組について共通理解することができた。

- ・ 食育推進検討委員会における協議によって、学校給食への地場産物の活用状況について共通理解するとともに、活用を更に進める上での課題及び解決のための具体的手立て等を明らかにすることができた。
- ・ 食育推進検討委員会において紹介された「交流プラザ」から、地場産物を学校給食の食材として調達した学校が複数あった。
- ・ 食育推進検討委員会において紹介された「交流プラザ」と連携し、学習用の資料や情報を入手した学校が複数あった。
- ・ 事業推進地域における取組の成果を、県教育委員会主催の行事その他様々な機会を通して、広く発信することができた。

テーマ2 「地場産物を活用した体験活動の実施等、学校における食育の推進」について

- ・ 「弁当の日」の取組を、旧清武町域全ての小中学校で共通実践することができた。
- ・ 郷土食の調理等、会場毎に内容を工夫しながら、「夏休み親子料理教室」を旧清武町域のみならず市内全域で実施することができた。
- ・ 近隣の「日向夏みかん」栽培農家の見学や収穫体験など、生産者と連携した学習を実施した学校が複数あった。
- ・ 親子で参加する行事の実施によって、児童生徒及び保護者の食に対する興味や関心を高めることができた。
- ・ 農作業体験や料理教室等、多様な活動を実施したことによって、児童生徒の食に対する関心や実践への意欲及び技能等を高めさせるための契機となった。
- ・ 著名な講師を招聘しての講演を実施したことによって、学校関係者のみならず、保護者や地域住民の食に対する関心や実践に向けた意欲を高めることができた。
- ・ 先進地の視察研修を実施したことによって、食育に関する多様な取組について直接学ぶことができ、今後の実践の参考となった。
- ・ 企画から掲示資料の作成、当日の運営及び指導等々、市内の学校に在籍する栄養教諭や学校栄養職員が、専門性を活かしながら体験活動に積極的に参画するとともに、学校給食調理員の協力も多数みられ、関係者が協力・連携して食育に取り組む雰囲気は更に高まった。

今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

テーマ1 「学校における地場産物活用を核とした食育推進体制づくり」について

- ・ 本事業によって組織されたネットワークは、地域に根ざした食育を推進する上で極めて有効である。次年度以降は予算措置がなくなるが、引き続き積極的な活用が求められる。
- ・ 地場産物の活用促進を考える上で「交流プラザ」をいかに活用するかということが重要となる。本事業によって得られたネットワークを機能させ、品数や安全性の確保等、課題の解決に努めながら実現を目指していく必要がある。

テーマ2 「地場産物を活用した体験活動の実施等、学校における食育の推進」について

- ・ 食育推進検討委員会において、地域の特産品や体験学習を実施できそうな場所、学校の教育活動に対する協力を惜しまないとする生産者の思い等について改めて知ることができたので、栄養教諭及び学校栄養職員が中心となって、次年度以降も地場産物や地域の素材及び人材を生かした取組を工夫し、積極的に実践することが求められる。
- ・ 「弁当の日」や「親子料理教室」等の有効な取組については、次年度以降も引き続き実施する必要がある。